

## 令和4年度 第1回築上町総合教育会議 会議録

1 日 時 令和4年9月30日(金) 午後2時30分開会

2 場 所 築上町役場本庁 議会委員会室

3 出席者

(構成員) 築上町長 新川 久三  
教育委員会  
委 員 麥田 猛美  
委 員 折本 美佐子  
委 員 茅田 香  
委 員 小林 正尚  
教育長 久保 ひろみ

(構成員以外の出席者)

椎野総務課長、鍛冶学校教育課長、尾座本生涯学習課長、  
岡部学校教育係長、出口学校管理係長、藤江学校整備係長、  
宮内指導主事、榎指導主事

(傍聴者) な し

※読みやすくするため、発言の趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

午後2時30分開会

4 会議内容

(1) 開会

○学校教育課長(鍛冶 孝広君) それでは、ただいまから令和4年度第1回築上町総合教育会議を開会させていただきます。お手元に今日の会議の次第をお配りしていますので、次第に沿って進行させていただきます。

まず、町長挨拶でございます。町長、よろしくお願ひいたします。

(2) 町長あいさつ

○町長(新川 久三君) 皆さん、改めましてこんにちは。台風一過というか、暑さ寒さも彼岸までと、本当にめっきりしのぎやすい季節になってまいりましたけれども、今日は久方ぶりの総合教育会議ということで、御参集いただき、大変ありがとうございました。

一応、事務局の調査によると、少子化が現実的になってきておると。そしてまた、児童数の推移を見ていくと、だんだん少子化の影響で入学児童がゼロの年もあるような状況になっておるようで、全ての学校ではございませんけれども。

そういう形の中で、予てから学校の統合、それから小中一貫と連携、そしてまた単独という、一応3つの方針を事務局のほうで出して、適正配置基本計画(案)というのが、今、出来上がっています。今日はこの議題を皆さんと意見交換をしたいと思ひます。

それともう一つが、築城支所、これを僕は図書館にしていこうということでは言明しております。その中で、皆さんにパンフレットを見ていただいておりますけれども、四国の梶原町という、本当に雲の上の図書館、それから役場も全部木造なんです。全て木で造った建物が非常に多い町でございます。ただし過疎の町ということで、見物人はおるけれども、お金はなかなか落とすことができないと、こういう状況、本町によく似ています。本町はそこまで山の中ではないですが、海あり、山あり、野ありという自然豊かなところでございますけれども、そういう形の中で、図書館を、国立競技場を設計した隈研吾さんが手がけた町でございます。他の全ての木造の建物をです。そこで、私どもも隈研吾さんに何とかあやかりたいということで、既に9月3日、隈研吾さんに本町に来ていただきました。そして、レイアウトをお願いしているという形になるので、最後まで付き合っただけであればいいかなと思ひています。そうすれば、すごいネームバリューの図書館ができると、このように考えているところでございますし、今日は事務局から、この2つの報告を、そのあと意見交換をやっていただこうというふうな形になっておるので、よろしくお願ひ申し上げまして挨拶とさせていただきます。

(3) 報告事項

築上町立小中学校適正配置基本計画(案)について

○学校教育課長(鍛治 孝広君) ありがとうございました。それでは、早速、報告事項に移りたいと思ひます。まず、1点目が築上町立小中学校適正配置基本計画(案)について、学校教育課、宮内指導主事から報告を行います。

○指導主事(宮内 智久君) 失礼いたします。教育委員会指導主事の宮内でございます。よろしくお願ひいたします。

まず初めに、築上町教育委員会の目指す教育について説明させていただきます。築上町教育委

員会では、令和4年4月に築上町教育大綱・教育振興基本計画を策定し、21世紀を担う持続可能な社会の創り手の育成を基本目標に、夢と志を持ち、可能性に挑戦し、未来を切り開くために必要となる資質能力を育成するという基本方針を立て、社会の変化に対応した生きる力を育てる教育の充実に向けて取り組んでいるところでございます。

また、目標達成のため、9年間の連続した教育を目指した築上町小中一貫教育基本方針を作成し、2つの中学校区において、次に示します4つの方針で推進することにいたしました。

1つ目は、系統性のあるカリキュラムづくりです。これについては、現在、このように小中学校の先生方に取り組をお願いしているところです。

次に、2つ目ですが、小中の先生方の連携が必要であるということです。

そして3つ目は、取組内容を中心にキャリア教育、一つは、やる気という部分がちょっと低いようでありまして、将来、何になりたいのか、そういった目標もまだ立てていないという児童生徒が多くございますので、そういったことも含めながらキャリア教育をして自信をつけさせていく。さらにはICT教育、それから国際交流を充実させていこうと考えているところでございます。

4つ目ですが、コミュニティースクールを基盤に、地域ぐるみで子どもを育てる学校、まちづくりを目指すということにしております。

推進に当たりまして、キーワードを「学びと育ちをつなぐ」とし、基本方針と関連させながら4つの視点を設定いたしました。御覧ください。

視点1は、子どもの学びをつなぐということ。視点2は、子どもの心をつなぐ。視点3は、教職員の意識をつなぐ。そして視点4は、学校、家庭、地域のきずなをつなぐということで、先ほど説明した視点とも関連させているところでございます。これらは後でお示ししますが、築上町が考える新しい時代の学校の在り方と関連させております。

以上、簡単ですけれども、築上町の教育委員会が目指す教育について説明させていただきました。

次に、学校現場の状況はどうかということで、児童生徒数の推移について見ていただきたいと思います。表を御覧ください。築上町における小学校入学児童の学年別推移を表しております。令和4年度までは実数値でございます。令和5年度以降につきましては、出生数を基にして推計しておりますので、今後、若干の誤差はあるかと思いますが、大きな変化はないと思います。学校別になっておりますが、ちょっと見にくいと思いますので、次に分かりやすいようにグラフにしてみました。御覧のように、推計値も含めまして、12年間の間に、ほぼ半減する予測であります。平成29年度から見ていきますと、令和10年あたりは、こういうような数になっていきます。

では、中学校のほうはどうかといいますと、次のほうを御覧ください。中学校のほうも小学校の入学児童の推移を基に推計して、次のようなグラフになります。小学校がほぼ半減になっていきますので、当然、中学校の生徒数も半減することになります。ただ、令和11年というのは、先ほど小学校もありましたけれども、令和5年度の入学児童が、そこだけ多いんです。それが中学校にも、その子どもたちが令和11年に入ってきますので、そこだけはちょっと上がりますが、おおむね下がっていったということになります。

また、学校の施設のほうを見ていただきたいと思います。お配りした資料のほうが詳しく書いてありますけれども、簡単に、教室のある建物の建築年度だけを上げております。ほとんどが昭和40年代に建てられておまして、築50年前後であり、椎田小学校の管理棟に至っては、現在59年も経過しているという、私が入学したときには建っておりました。そういった状況でございます。

以上、児童生徒数と施設の現状についてお話しましたが、児童生徒数が減少することによって学校が小規模化していくことがお分かりのことと思います。このことは現在、大都市を除く多くの地方でも同じ現象が起きているということです。

では、学校の小規模化に伴うメリット、良さと、デメリット、課題について考えてみましょう。表のほうを御覧ください。4つの面から考えていきたいと思います。

まず、学習面ですけれども、人数が少ないわけですから、先生は一人一人の学習状況を把握しやすい。そして、きめ細かな指導がしやすくなるということになります。また、発表の機会がたくさん増えてくる。一方、デメリット、課題としましては、グループ学習などの多様な学習形態が取りにくい、一人の個人の勉強になってまいります。当然、サッカーとかバレーとか、そういった集団競技、集団学習も難しくなってくる。中学校の部活においては、部員の確保や指導者不足による選択の幅が少なくなる。以前は十数あったような部活も、今は4つか5つぐらいになってしまっています。

次に、生活面ですけれども、一人一人の活動の場が多い。合同でする場合が多いですので、異年齢との学習活動の場が多いのですけれども、デメリットとしましては、クラス替えがなく、人間関係が固定化してしまっている。もし1年のときに仲が悪くなったら、ずっと小学校卒業まで同じクラスになっていく。そういうような状況がある。それから、多様な見方、考え方に触れる機会が少ない。また、子ども同士、互いに認め、協力し、ここですね、切磋琢磨する機会が減少し、向上心があまり高くないということ。それから、集団における社会性や協調性の育成が大変難しくなってくるだろうと。集団ではなくて、やはり個別の指導になってしまうわけです。こういうようなデメリットがある。

また、学校運営面に関しましては、地域の協力により学校生活の充実、皆さん協力していただ

けますので、本当にありがたいことで充実しているのですが、今度は教員同士の連携や切磋琢磨する機会が少ない。子どもじゃなくて、先生自体もこういうような状況になる。また、教員1人分の業務内容が増えていく。それから、中学における教科指導教員、先生が少なくなれば、教える教員がいなくなるわけです。だから教科外のことを教えなくちゃいけなくなってくるようなこともあります。

それから、最後に財政面でございますけれども、先ほども見ていただきましたように、施設の老朽化による改修や維持補修に多額の費用がかかっております。また、施設維持のための予算確保が、今現在、財政的に厳しくなっていることは御存じのことと思います。そういうような状況ですので、各学校の新しい設備の充実というのは大変難しい状況にあるということでございます。

以上のことから、築上町が考える新しい時代の学校の在り方として、学校生活でのつながり、地域とのつながり、社会情勢や環境とのつながりを単独ではなく、それぞれを連携させて強化していく必要があると考えるところでございます。

そして、小規模化によるデメリットの解消、先ほど上げました、この部分、こういった面。そして、コロナ禍後の令和の日本型学校教育を推進していく、個別最適な学びと協働的な学びを実現していかななくちゃいけない。個別ということは、先ほど小規模校のメリットとして、あったのですけれども、協働的な学び、この部分が難しいところがあるということ。これらを解消するためには、一定規模の児童生徒集団の確保が必要となってきますし、経験年数や専門性など、バランスの取れた教職員の配置が望まれてきます。これらの教育的観点を実現していくためには、学校規模を適正化しなければならず、そのためには学校の再編、適正配置が必要であると考えたわけでございます。

では、適正配置の基準としてはどう考えているのかということでございますけれども、小学校では、当然、先ほどありましたクラス替えが必要であるだろうと。そして、そのことから考えて、通常学級で1学年2学級以上、全6学年ですので12学級以上を目指します。また、中学校ですけれども、やはりこれも同じようにクラス替えが可能であり、通常学級、教科から考えると、やはり3学級が望ましい。全ての教科に教員が配置できる。こういうことを目指していきたい。合計9学級以上を目指していきたいと考えているところでございます。

では、学校の再編に際して、小中学校の9年間一貫した教育を行なうために、現在の中学校区を生かして、下記のとおり小中一貫校を形成し、小規模特認校とする八津田小学校を含めて、令和14年度ごろには3校体制にしていきたいと考えているところです。この表で、まずここです。椎田中学校の一貫校。施設一体型と分離型。これは八津田小学校がありますので分離型ということになります。また、築城中学校は施設分離型という型で示しております。

少し分かりやすいように、次のイメージを御覧いただきたいと思います。椎田中学校区と築城

中学校区ですけれども、令和4年度、現在でございますけれども、椎田中学校と5つの小学校がございます。そして、遅くとも令和9年度には椎田小中、コミュニティー一体型校を開校していきますので、こういった中で、椎田小学校、小原小学校、西角田小学校、葛城小学校が一緒になっていく。また、八津田小学校は、こちらのほうに入る、または小規模校特認校ということで、こちらでも自由選択という形になる。

そして、築城中学校区に関しましては、施設分離型ということで、築城中学校と築城小、下城井小、上城井小学校が一緒になってという、今のところはこういう案でございますが、令和14年度になりますと、築城小中一貫校というふうに、ここに施設一体型と書いております。これは先ほどお見せしました児童生徒数の推計から考えますと、本当は小学校2クラス、中学校は3クラスほしいところなのですが、残念ながら中学校は1クラス、つまり中学校は合計で3クラス、そして小学校は、一緒になったとしても1クラスにしかならない。そうすると、合わせて9クラスになる。となると、現在、新しく建てられております築城中学校は多目的教室を含めて9クラスを確保できる状況になりますので、今のところは令和14年度の時点で、ここに施設一体型になるのではないかなと考えている。築城小中一貫校ができますので、椎田小中一貫校と併せてここで、施設一体型という形にし、八津田小学校のほうについては、築上町小規模特認校という形にしていく、やはり学校規模が大きくなってしまうと、なかなかなじめないお子さんがいますので、そういったお子様が入れるところを、こういうふうに確保していきたいと考えているところです。

また、適正配置後の通学に関しましては、スクールバスの運用をはじめ、詳細については今後御意見をいただきながら、検討してまいりたいと思っております。

以上、簡単でございますけれども、築上町立小中学校適正配置基本計画(案)の説明を終わらせていただきます。

○学校教育課長（鍛治 孝広君） ただいま指導主事のほうから基本計画(案)について説明をさせていただきます。この時点で、何か御質問等ございましたらお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○学校教育課長（鍛治 孝広君） 資料の事前配付をさせていただいていましたので、大体、内容的にはお分かりいただけたのではないかなというふうに思います。

それでは、引き続き報告事項2点目の図書館建設事業について、生涯学習課、尾座本課長から報告を行います。

図書館建設事業について

○生涯学習課長（尾座本 三雄君） 生涯学習課、尾座本です。図書館建設事業について、現在の状況について御説明させていただきます。

現在、図書館につきましては、築城支所への移転が決定しており、図書館として利用するための構造調査を現在行っております。この調査は、リノベーションするための床の耐久力であったり、安全上扱えない部分、そして取壊しが可能な部分、例えば壁とか床とか、もしくは図書館を利用するために法令上必要な設備の追加などについて調査のほうを行っております。

その調査を基に、リノベーションをしていくこととなりますけれども、おおむね1階部分につきましては図書館、2階部分を学習室やギャラリー、3階部分については倉庫という予定で検討しております。

また、新しい図書館のコンセプトにつきましては、築上町図書館協議会において決定すべく、協議のほうを進めておりますけれども、知の拠点として、図書館としての機能を充実しつつ、人が集まり、交流できる空間があり、町のシンボルとなる、そのような図書館を目指しております。今後、決定したコンセプトを基に、事業を進めていきたいというふうに考えております。

今、お手元のほうに示した分は、まだ決定ではございません。こちらのほう、今後、たたき台として検討していくというところで考えております。

○学校教育課長（鍛治 孝広君） 図書館建設事業について報告をさせていただきました。何か御質問等があればお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○学校教育課長（鍛治 孝広君） よろしゅうございますか。

それでは、4点目の意見交換に移らせていただきたいと思います。意見交換については、新川町長が座長ということで、委員の皆さんで意見交換をしていただきたいと思いますというふうに思います。おおむねの議題については、記載をしているとおりでございますので、よろしくをお願いいたします。それでは新川町長、進行をよろしくをお願いいたします。

#### （4）意見交換

築上町立小中学校適正配置基本計画(案)について

○町長（新川 久三君） 一応、座長ということで進行させていただきます。

まず1番目に築上町立小中学校適正配置基本計画(案)についてということで、先ほど宮内先生から非常に詳しい説明をいただきました。それと私から、今までは10人未満にならないと統廃合はやらないという町の方針をもって、ちょうど私が椎田の町長に就任したときに、まずこれを約束して、今、21年目になっております。そして、合併してからも、小原小学校が対象になるような状況になったけれども、それも10人未満になるまでということで、今までそういう約束をして、地域の皆さんは安心して学校が存続すると。しかし、先ほども挨拶で申しましたけれども、少子化の現実と、それから児童数の推移を考えると、そしてまた、いろいろパワーポイントにも出していただきました。建築されて、経過年数が相当たって、建て替えには莫大な予算がい

ると。それから、維持管理についても非常に予算がいるというふうな考え方で、今まで堅持しておった10人以上の児童数の学校存続というのは、少し方針転換をして、今、検討していただいている適正配置基本計画(案)に基づいた学校配置をやったら良いだろうなど私も思っておりますし、皆さん方の先ほどの基本計画(案)についての意見を求めてまいりたいと思います。

よろしく申し上げます。一人ずつ言ってもらっていいですか。教育長お願いします。

○教育長(久保 ひろみ君) 教育長の久保です。今、こちらの適正配置の基本計画(案)のほうを報告させていただきましたが、本当に町長がおっしゃられるように、今まで小さな学校を大事にしてきまして、コミュニティースクールで取り組んできたおかげで、本当に地域が学校のことを大事に思ってくれて、学校づくりが地域づくりにつながるような実践が今までできてきたというふうに思っております。ただ、町長も申しましたように、やはり少子化の現実、そして児童生徒数が非常に減少しまして、本当にクラス数が少なくなってしましまして、先ほどパワーポイントで述べましたようないろんな課題が出てきております。そこで、やはり子どもたちに切磋琢磨する、集団で学ぶ機会というのを義務教育時期につくるということが非常に大事なのではないかとということで、今回、このような基本計画(案)をつくらせていただいたところです。

せひ、委員さんの、忌憚のない御意見をいただきながら、この計画を練り上げて、完成させていきたいと思っておりますので、御意見のほうを出していただければと思っております。

○町長(新川 久三君) ありがとうございます。では次に、麥田委員どうですか。

○教育委員(麥田 猛美君) 事前に資料をもらっていただきましたので、ずっと見ましたが、結構参考になりました。計画そのものについて、別に反対をするものではありませんが、気持ちの上で、目標であるとかいう段階ではないのではないかとこの時期までにここは達成したいと。目標じゃなくて、達成、クリアするような年度をきっちり具体的に示す段階に入っているのではないかと思うのです。これから長い期間をかけて、こんな方向で行きますよという段階は、もうとっくに終えていると自分では理解しているので、もう動き出しているわけですから、何年度までには、ここまで終わらせるというところの具体的な案が知りたいところです。生きている間には、ぜひ見てみたいものですから、よろしく申し上げます。

○町長(新川 久三君) ありがとうございます。では、折本委員お願いします。

○委員(折本 美佐子君) 折本です。今日、具体的な説明を受けまして、資料もいただきましたので、ゆっくり見させていただきましたが、私は個人的に大賛成であります。予算の都合がつかずならば1年でも早くやっていただけたらいいなと思います。

説明にもありましたように、小規模校についてはメリットよりもデメリットのほうが増えてきていると思うのですけれども、小規模校に関わっている地域の方の気持ちを思うと、伝統文化、神楽とか、いろいろとすばらしいものを持っているので、その辺のところもコミュニティース

クールとかで取り入れて、地域の伝統文化とか地域の住民の方、今までもずっとお世話になっている方たちにも喜んでいただけるような形で、この事業が進められていけばいいなと思いました。以上です。よろしくお願いします。

○町長（新川 久三君） ありがとうございます。では、小林委員どうぞ。

○委員（小林 正尚君） この案に賛成なのですが、自分は経験として築上町内では小原小、それから寒田小、それと小と大、極端なのですけれども、800人いたときの椎田小、そして築城小と勤務しています。それぞれに良さはあるのですが、小規模校にいたときに、とても良いところばかりだったのですけれども、やはりひとクラス10人の数を切ったり、寒田小がした場合があります。そこはいろいろな面で教育的に厳しい、支障があったりした経験をしています。そのときに先輩が来たりとか、いろいろあったのですが、先ほど出ました複式の授業でも、担任のほうで2学年を分けて、1学年のほうで1人だった場合は、その1人の子どもが多様な考えを持つために、自分が子どもになって交流したり、いろいろ工夫したのを思い出しました。そういった中で、今回の適正化というところで話を進めれば、子どもたち、オール椎田とオール築城というような、全員で少子化に対応するような人材をつくっていくとか、そういうところで、いい方向に行くのではないかなと。

また、財政面でも、学校が絞られてくると、そこにお金を使う、質を高めることができる。例えば、キャリア教育で有名人を1人呼ぶお金ができたとか、そういうのに使えたりして、子どもたちが目をきらきらさせて、その学校の中で学習できる環境を整えていけるのではないかなというふうに思っております。

自分は葛城小学校区で、葛城小学校がなくなるのは残念ですけれども、もうそういうようなことを言っている段階ではないと思いますので、こういうデータを見ると、多くの人たちも納得する。なかには、納得しない人もいるかもしれないのですが、おいおい納得していくのではないかなと思います。オール椎田、オール築城でやっていったらいいと思います。以上です。

○町長（新川 久三君） ありがとうございます。では、茅田委員どうぞ。

○教育委員（茅田 香君） 小中一貫校という基本計画に基づいて、築上町が掲げる教育方針というのがしっかり出来上がっているというところはすばらしいですし、小学校と中学校の先生たちと連携を取った小中一貫教育という基本方針が、しっかり芯が出来上がっているというところが良いと思います。なので、今から出来上がるのが楽しみで、すばらしい学校が出来上がるのではないかなと、そういうところに私も携わらせていただけるのがありがたいなと思っております。どうぞよろしくお願いします。

○町長（新川 久三君） ありがとうございます。ちょっと私からも。事務局のパワーポイントについて、そのときに触ればよかったのですが、あれは、今、うちの町にいる小学生が

2つの中学校に全員進学したときの数値ですよ。育徳館と私立に行っている中学生がいるが、そういうのは全然加味していないということで、加味すれば、もうちょっと少なくなる可能性があるということですよ。ただ、この2つの中学の出来がよければ、全部よそに行かなくて済むような、そういう一つの考え方も持ってやらなきゃいかんだろうと思うので、そのところも強調してもらったほうが良いんじゃないかなと思います。

○指導主事（宮内 智久君） 分かりました。先日の教育委員会の折に、築上町の学力について述べさせていただきました。ここ10年あたりで上昇してきておりまして、本年度に関しましては、小学校、中学校とも全国平均または上回る状況です。小学校の理科なんかは相当できている状況です。そういった意味で、育徳とか、私立とかに行かなくても、うちの中学校に行けばできるだろうと。プラス、こういうすばらしい環境を作ることによって、他にはないような教育システム、そして設備というのがあれば、他に行く必要もないのではないかなと思う方が多いのではないかなと。今のところ、誠に申し訳ないのですけれども、老朽化している。そういうような状況の中で、やはり親は心配しているのです。老朽化している施設・設備のなかで、子どもたちが勉強できるか。そういう思いを今回の計画を通してできるだけ少なくして、逆に、他からも来ていただけるようにしていきたいなと考えております。ありがとうございます。

○町長（新川 久三君） 学校教育課に、もう一つは、先生の労働低減のために、クラブ活動は全部、選任のコーチを雇ってやらなければならない。町のほうも、十分金を出して、僕はやっていきたいと思いますので。そして、1つの学校ではなくて、築城中学と椎田中学、合同のチームをつかって、場所は移動するのに時間がかかるけれども、築上中学、それで各種大会に出て、そして強くなれば、また他からも集まってくるとか、そういう形になるんじゃないかなと思って、そのところも検討してもらいたいと思います。

○指導主事（榎 憲治君） 榎でございます。部活動の地域移行というものが、ここ3年以内に、それに移行しなくてはいけないという、今、そういうことになっておりますので、本町におきましても、近隣とかあるいは県内でも実施している推進地区がありますので、そういったものを参考にしながら、今後はやっていきたい。今、町長さんが言われたとおり、子どもたちの生徒数の減少から、そうせざるを得ない。今、現実に合同チームということで、2つの中学校で1チームを編成して大会に出ているということもございますので、今後、検討していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○町長（新川 久三君） 何か他にないですか。

○委員（麥田 猛美君） 具体的な資料がたくさんあったので、十分といえば十分なのですが、私が一番知りたいのは、町全体として、例えば、ここ10年、20年ぐらいの総人口がどれぐらいに推移しているのかというのがないと、子どもの数だけではなかなか判断しにくいなどは

思うのです。だから、できたらそういう資料もあったほうが、私も地域住民ですけれども、地域の方には納得が得られやすいのではないかなと。今、部分的に見ているような感じなので、全体の人口の推移と子どもの数の推移を見比べたら、もっと浸透しやすいのではないかなと私は思っています。ありがとうございました。

○学校教育課長（鍛治 孝広君） 麥田委員の件でございますが、今、町のほうで、築上町地方創生人口減少対策本部というのを設置しております。ここで築上町の人口減少対策について、しっかり議論をしているというところでございますが、その中で、人口の推計等も出しておりますので、その辺の資料を、今日は資料が手元にはございませんが、活用させていただきたいというふうに思っております。

○町長（新川 久三君） 他にないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

図書館建設事業について

○町長（新川 久三君） 良いですか。よければ1番の議題を終わって、2番の図書館の建設事業についての意見交換をしたいと思います。これは、今度は麥田委員のほうからお願いします。

○委員（麥田 猛美君） 麥田です。図書館には、ものすごく個人的に大きな期待をしています。先ほど説明をお聞きして、大体、全体のスタイルは分かりましたけれども、まだ抽象的な話なので、平面図が出たりとか、立面図が出たりとか、こういうものを早めに出してほしいなどというのがあるんです。そうしないと、多分、私が思っているイメージと小林先生が思っているイメージはかなり違うと思うのです。だから、少しでもイメージが重なって、誰もが見ても、ああ、こういう感じだなということがイメージできるレベルのものがないと、意見の言いようがないというのが正直なところでございます。でも大きな期待をしています。ありがとうございました。

○町長（新川 久三君） 図書館は具体的にできていませんが、私個人のイメージとしては、やはり京築ヒノキをたくさん使った図書館にしてもらいたいと、こういうのを隈先生のほうにはお願いをしているので、あとレイアウトが隈先生のほうから示されたときに、また皆さんに報告する機会を持ちたいと思いますので、そのときはよろしくお願いします。

他はないですか。折本委員、お願いします。

○委員（折本 美佐子君） 折本です。図書館、とても期待しております。さっき隈研吾さんのお話がありましたけれども、教育長から高知に見学に行ったときの資料を見せていただきました。すばらしい建物で、もしこういう、これに近いものが築上町の京築ヒノキとかを使って築上町にもできたら、きっとまた一つの町おこしにもなるでしょうし、築上町に住んで子育てをしようと思ってくれる人も出てくると思います。

コロナになって、リモートで仕事ができるようになりましたので、築上町はインターも3つあ

りますし、空港も近いですから、リモートで仕事ができたら、田舎に住もうかと思ってもらえるのではないかなという期待をすごく持っておりますので、図書館のほうもお金はたくさんかかると思うのですけれども、推し進めて、前向きに行ってほしいと思います。よろしくお願いします。

○町長（新川 久三君） ありがとうございます。では、茅田委員お願いします。

○教育委員（茅田 香君） 私も図書館のお話はすごい期待をしております。コマーレのほうの図書館に子どもと一緒にいかせてもらったりして、利用はしていたのですけれども、こういう立派な図書館ができたら、築上町のシンボルみたいになって、カフェとかも併設されれば、働く方も採用とかできたりして、築上町いいねとって、町外からの御利用者さんとかも増えたりして、お買い物をしたりとか、ショップみたいなのもできたりして、そういう夢が膨らむ施設になると楽しみにしております。よろしくお願いします。

○町長（新川 久三君） 小林委員、お願いします。

○委員（小林 正尚君） みんなが集う図書館ということで、お年寄りが来たり、小さい子が来たり、それぞれの年代の人が来るきっかけ、例えばゲートボール場が横にあるので、ゲートボールをした後に図書館でコーヒーを飲んで、あんな本があるねとか、そういうネットワークがつながるような図書館にしていいただいたらありがたいなと思います。以上です。

○町長（新川 久三君） まだ先が見えていないわけですがけれども、今なら間に合うと思うので、皆さんのアイデアを課長のほうまで寄せていただければ、設計者のほうに、こんなものがほしいということで、アイデアがかなうか、かなわないか分かりませんが、皆さんのいろんな知恵があればお願いしたいと思います。

以上です。最後に教育長、どうぞ。

○教育長（久保 ひろみ君） 私も見学に行かせていただいて、本当に素晴らしい、図書館というのが、もちろん本を読むという主目的があるのですけれども、そこにお年寄りから小さな赤ちゃんまでが集って、またそこでコミュニティーの輪がひろがるというような大きな役割もあるんじゃないかなというふうに思って、図書館づくり、特に委員さんたちの意見を聞いたり、地域の方々、読書ボランティアの方たちにも意見を聞いたりしていますので、そういう皆さんの声を生かした形につくり上げていけたらなというふうに思っています。

あその場所は、私、すごく良いと思うんです。椎田勝山線の道路の脇ですし、あそこにちょうど信号があって、いつも私はあそこで赤信号で止まらせられるのですが、前を見たときに、もしもそういう建物があったりすれば、ここは何かかなと思って足を運んでいただけの方もいるのかな、そうすれば、さっき小林委員が言われたみたいに、横のゲートボール場であったり、公園もありますし、そういうところが活用していただけるのかな、そんなふうに整備ができたら、また夢が広がるのかなというふうに思っています。頑張りたいなと思っています。

○町長（新川 久三君） ありがとうございます。他にないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○町長（新川 久三君） なければ、私どもも頑張っただろうと思っていますので、またよろしくお願いします。

後は、その他の教育行政についての意見交換ということで何かあればお願いします。

○教育委員（麥田 猛美君） どうしても気になっているのでお願いします。私は、さっきの会議のときにも言ったのですが、環境という面にすごい興味持っているんです。何が言いたいかというと、学校が無くなったり、いろんな場面で何が起こったかということ、そこに何十年も生えている木をばっさり切ってしまったんです。多分これは教育委員会が、その時の教育委員会の判断で切ったんだろうと思いますけど、今考えてもなんかそんな惨いことをしていいのかなと、こう思っているわけです。だから学校を統合したりとか、いろんな施設を作ったりするのは良いんですけど、なんか何十年も育ててきた木が邪魔でしようがないというような発想は、やっぱりやめてほしいなと思うんです。

具体的に言えば、船迫小学校の入口に樹齢100年ぐらいの桜の木があったんです。船迫小学校が無くなったときに、枝を落としたんじゃないですよ、根元からばっさり切られたりとかいうことがありました。そういうことがあったので、いろいろ意見も言いたいんですけど、そういうことだけはやめてほしいなと。だからそのところもやっぱり環境という面で共生しながら、自然と共生しながら、すばらしい建物なり、施設なりを作っていくんだという視点だけは忘れないでほしいなと、言う場面がなかなか無かったんでこの場で言わせていただきましたが、よろしくお願ひしたいなと思います。以上です。

○町長（新川 久三君） ありがとうございます。他にないですか。

無ければ、学校跡地を、早急に何に利用するかというのを決めないと、今までは学校を廃校にしたらそのまま、例えば町の倉庫ぐらいにしか使っていないという、そしてそれも使えないようになってきたから、これは早急にどうするかということを決める、これは教育委員会だけの問題じゃないけど、企画財政課とか、私もそれは指示はしますけれども、今までやっぱりそういう廃校になったところが、そういうなかなか手つかずになっているので、何か有効利用という形にやりたいと思っているので、やっぱりこれを早く方針を決めて、それに向かっていくというのが大事だろうと思うんで、そのところ一応教育委員会も頭に入れながらやっていただきたいと思います。以上です。他にないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○町長（新川 久三君） なければ、一応これで閉じたいと思います。良いですか。では、課長にお返しします。

(5) その他

○学校教育課長（鍛治 孝広君） 本当に貴重な御意見をいただきました。ありがとうございました。それでは、これでとりあえず意見交換については終了ということにさせていただきたいというふうに思います。

それでは、その他でございます。特に事務局からその他ございません。委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(閉会)

○学校教育課長（鍛治 孝広君） それでは、本当に貴重な御意見をいただいたというふうに思っております。またその御意見を踏まえて、今後、学校の適正配置とそれから図書館の建設等を進めてまいりたいと考えているところでございます。

それでは、これをもちまして、令和4年度第1回築上町総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。

午後3時20分閉会

---